

健やか ぐんま

Sukoyaka Gunma

vol. 2

2013. 秋

Autumn!

特集

がん征圧チャリティーウォークイベント

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2013ぐんま実施報告 ②⑤

財団からのお知らせ ⑥⑧

- 普及啓発活動について
がん征圧 / 複十字シール募金 / 臓器移植
- 中学生職場体験
- 県受託事業について
がんピアサポーターの派遣 / タンデムマス法の開始
- 第1回群馬県地域保健研究発表会開催のお知らせ



公益財団法人 群馬県健康づくり財団



● いよいよサバイバーズラップ・参加チームのウォークです。

サバイバーのみなさんが、そろいの紫色のビブスを着て、群馬県初の命のリレーが力強くスタートしました。

2周目には、知事もリレーウォークに参加してくださり、また県や県内のがん診療連携拠点病院、同推進病院17施設すべてからのチーム参加をはじめ

69チームが、県全体でがんに強い群馬を創ろうという姿勢を強く感じました。



がん征圧チャリティーウォークイベント リレー・フォー・ライフ・ ジャパ ン 2013 ぐんま

実施
報告

10月12日(土)12時～13日(日)12時 県総合スポーツセンターふれあいグラウンドで24時間に渡って行われた、「リレー・フォー・ライフ・ジャパ
ン2013ぐんま」が、無事終了しました。

リレーウォーク参加チーム69チーム、ステージイベント参加者、ボランティア、一般参加者を含めると2800人の方が、がんに立ち向かうため命のリレーをつなぎました。

リレー・フォー・ライフ・ジャパ
ン2013ぐんま
実行委員会 事務局

実行委員長あいさつ

お蔭さまで初めてのリレー・フォー・ライフ・ジャパ
ン2013ぐんまを無事終了することが出来ました。

ご参加いただきましたみなさま、ご支援、ご協力を頂きましたみなさま、ほんとうに有難うございました。心から感謝申し上げます。

「つながろう がんに負けない いのちのリレー」をテーマに、初めてのリレー・フォー・ライフ・ジャパ
ン2013ぐんまの会場には、笑顔と勇気と希望が溢れ、大きな支援の輪の中で、生きる元気を頂きました。

しっかり繋いだ手をさらに広げ、来年もまたお会いしましょう。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

実行委員長 本田 攝子



● 前日、午前中の会場準備はあいにくの雨でしたが、当日晴れることを信じ、リレーウォークのコースづくり、テント張り等を行いました。幸い午後からは、太陽が顔を出し、会場にたくさんのテントが並び、暗くなる頃にはいよいよ明日本番という雰囲気になってきました。もれなく準備出来ているかドキドキでした・・・。



● 当日は、さわやかな秋晴れ！
気持ちのいい朝でした。

続々と参加チームのみなさんが、集まりはじめ、会場が賑やかになってきました。

本田実行委員長の開会宣言で、イベントがスタートです。開会式では、県知事、県議会議長からご挨拶をいただきました。最近は大忙しのぐんまちゃんも応援に来てくれました。



● リレーウォークのみなさんを応援するため、ステージでは、21団体のみなさんが和太鼓演奏、合唱、ダンスなどの華やかなパフォーマンスで盛り上げてくれました。また、群馬県内のゆるキャラも多数集合し、楽しい雰囲気を創ってくれました。

ウォークで疲れた身体と心は、マッサージコーナーや、足湯コーナー、セラピードック、などのリフレッシュコーナーや飲食コーナーの温かい食べ物が癒してくれました。





● 24時間の命のリレーも

ようやくゴールが見えてきました。

最後までリレーウォークの人数が、減ることはありませんでした。これからはじまるの？という位明るい雰囲気、ファイナルラップを終え、いよいよ閉会式です。



● 閉会式では、実行委員会のみなさんがステージにあがり、大島副実行委員長が、「ぐんまからのメッセージ」を発信し、そこにいる参加者全員の心が、改めてがん征圧に対して一つになったように思いました。

ぐんまからのメッセージ

医師から「あなたは「がん」です」と告知されたとき、頭が真っ白になり、そして家族や仕事のこと、これからの生活が不安で不安でどうしようもなかったことが今でもはっきりと思い出されます。

あれから何年たったでしょう。がんとの孤独な戦いが続き、時には押しつぶされそうになり、全てがいやになり…

でも、今、しっかりと大地に足をつけ生き続けています。

それは、家族、医療スタッフ、そして多くの友人がいたからこそ、今の自分があります。

くじけそうになったとき、時には温かく、時には強く私を支えてくれた素晴らしい仲間がいたからこそです。

がんには罹らない。そしてがんになっても明るく元気に暮らせる社会…。その実現はまだまだかもしれません。

でも、そうした目標に向かって一歩一歩、歩みを進めるため、みんなで努力を続けていくことが何よりも大切なことです。

リレー・フォー・ライフのようなイベントは勿論のこと、ここに参加したみんながいつもの生活の中から、「がん治療の充実」

「がん検診の推進」そして「がん患者や家族の支援」を声高らかに発信していこうではありませんか。

このイベントを通して、私たちが多くのことを学び、そして多くの友人を得ることができました。

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2013 ぐんま」この前橋の地から、こうした運動が、日本に、そして世界に大きく広がるよう、多くの仲間と共に願っています。

結びに、このイベントの開催にあたって、ご協力いただいたすべての関係者の皆さま、心から感謝申し上げます。

また来年会いましょう。

当イベントを通じて、企業、団体、個人の方から寄せられた協賛金、募金は総額5,251,302円でした。
このうち実施経費を除いた金額は、公益財団法人日本対がん協会に寄付し、様々ながん征圧運動に役立てられます。



● フィールド内では、がんの啓発コーナー・健康チェックコーナー・がん相談コーナーなどが充実し、がんに対する意識の向上を図りました。子供から大人まで幅広い年齢の方に参加してほしいという実行委員の気持ちから子供たちが楽しめるキッズコーナーも充実させました。また患者会の方の貴重な体験発表で、がんをより身近なものとして感じることができました。



● 当日は予想していた以上のルミナリエが集まりました。それを一つ一つ手作業で、風で飛ばされないように、並べてくれたのは、県内の医療系大学のボランティアの皆さんです。午後から群馬特有の空っ風がひどくなり、ルミナリエの点灯が予定時刻にできず、ルミナリエに灯りがともったのは夜半すぎでしたが、幾重にも並んだルミナリエに書かれたメッセージは、夜通し歩き続けるみなさんの心を熱くし、足元をあたたく照らしてくれました。22チームのみなさんが、夜通しタスキをつなぎ続けました。

● エンブティーテーブルでは、その場に来ることのできなかった大切な人たちのことを想い、歌と朗読で偲びました。特別な時間でした。



ボランティアとして参加してくれた 看護学生さんからの声

- 多くの団体があり、たくさんの患者を支え励まし、自分も看護師になりその一員となる事を改めて実感した。
- サバイバーのがんと闘う気持ちを感じた。今も闘っている人がいて、いろいろな気持ちを抱えて参加していると思った。
- 参加者の頑張りを見て自分も頑張ろうと思った。参加者の多くの人が明るかった。
- 来年もまた会いたいと思った。
- がん患者だけでなく、その家族周りの人の思いも身近に感じることができた。

● 2日目の朝、昨日の風がうそのような、気持ちのいい朝でした。夜通し歩き続け疲れた身体を、ラジオ体操とヨガでほぐし、ラストスパートです。

2日目も、ウォークを続ける人数は減ることなく、リレーは続きました。



「がん征圧」 普及啓発活動を実施しました。

群馬県健康づくり財団スペシャルマッチ開催

BCリーグ 群馬ダイヤモンドペガサス×信濃グランセローズ



平成25年8月31日（土）に上毛新聞敷島球場において、がん征圧月間の周知と群馬県で初めて開催される「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2013ぐんま」の告知を目的としたスペシャルマッチを行いました。当日は晴天に恵まれ、開会式は新木専務理事のあいさつに始まり、「RFLJ2013ぐんま」の本田実行委員長が始球式を行いました。また、試合の合間に当財団の職員がペガサスのマスコットキャラクター 球馬・雷馬に扮して、がん検診の大切さを寸劇で訴えました。



ピンクリボン運動を実施しました

平成25年10月26日（土）グリーンドーム前橋で開催された第7回「ハワイアン in グリーンドーム～1000人フラ～」会場において、乳がんモデルを使用し、乳がんの自己検診法の啓発活動を行いました。

また、乳がん撲滅のピンクリボンタイムでは、乳がん検診に対する不安を解消する寸劇を行い、乳がん検診受診を呼びかけました。



県民マラソンで健康ブースを出店しました

平成25年11月3日（日）正田醤油スタジアム群馬を会場に行われた県民マラソンにおいて、参加者や来場者の健康増進を図るため、脳年齢測定、活力年齢測定、視力測定を実施しました。また、同時にがん検診受診を呼びかけました。

健康づくり財団から2人がマラソンに参加しました。



平成25年度 県健康福祉部長表敬訪問

8月1日の複十字シール運動開始にあたり、片野健康福祉部長を関会長（群馬県地域婦人団体連合会）らが訪問しました。

複十字シール運動の趣旨や県内での結核の現状などを説明し、キャンペーンで配布するグッズをお渡しして、複十字シール運動への協力をお願いしました。

運動期間は12月31日まで（運動期間外も募金を受け付けております）

これからも複十字シール運動をどうぞよろしくお願いいたします。



シールぼうや



臓器移植普及啓発キャンペーンを実施しました

10月の臓器移植普及推進月間を中心に県内の学園祭・健康まつり・大型ショッピングモールにて、意思表示カード・免許証・保険証の裏面に記載されている意思表示欄への記入方法の説明などの啓発活動を行いました。

臓器移植は病気や事故によって臓器（心臓や肝臓など）が機能しなくなった方に、他の方の健康な臓器を移植して、機能を回復させる医療です。健康な家族からの肝臓・腎臓などの部分提供による生体移植と亡くなられた方（心臓が停止した死後または脳死後）からの臓器提供による移植があります。

わたしたち一人ひとりが、今、臓器提供について考え、家族と話し合い、自分の臓器提供に関する意思を表示しておくことが大切です。



〈1. 2. 3. いずれかの番号を○で囲んでください。〉

- 私は、**脳死後及び心臓が停止した死後のいずれでも**、移植の為に臓器を提供します。
- 私は、**心臓が停止した死後に限り**、移植の為に臓器を提供します。
- 私は、臓器を提供しません。

〈1又は2を選んだ方で、提供したくない臓器があれば、Xをつけてください〉
 【心臓・肺・肝臓・腎臓・脾臓・小腸・膵臓】

（特記欄）

署名年月日： 年 月 日

本人署名（自筆）： _____

家族署名（自筆）： _____



中学生職場体験

前橋市桂萱中学校2年生4名が
職場体験に来られました！

当財団では視察見学研修や職場体験などを受け入れています。今回はご要望のあった前橋市桂萱中学校2年生4名の職場体験を受け入れました。そのときの様子を紹介します。

写真は模擬健診の様子です。

尿検査・身長・体重・血圧・視力・聴力、ひと通りの健診検査を体験しました。学校では体験する事のできない貴重な体験が出来たのではないかと思います。

視察・見学をご希望の場合は、お気軽に問い合わせください。（企画広報課）



平成25年9月～ 県受託事業 「がんピアサポーター派遣」はじまりました

がん患者・家族のための支援者（ピアサポーター）を派遣します。

群馬県がんピアサポーター養成研修会修了者を「群馬県がんピアサポーター」として登録し、がん診療連携拠点病院・群馬県がん診療連携推進病院相談支援センターへ派遣いたします。

がん経験者等が「ピア（仲間）」として、患者やその家族と経験を共有し、ともに考えていくことにより、患者やその家族の苦痛の軽減や生活の質（QOL）の維持向上を図ります。

平成25年10月1日～

「タンデムマス法」による 新生児マススクリーニングの実施がはじまりました

赤ちゃんの血液を検査して、ミルクや食べ物に含まれる栄養素を代謝できない先天性の病気、また甲状腺や副腎に関与する先天性疾患の早期発見・早期治療の手助けを行う検査を実施しています。

この検査は、群馬県から委託されており、今まで6疾患が対象でしたが、平成25年10月1日より19疾患が対象となりました。

県内の医療機関で生まれた赤ちゃんで、保護者が検査を希望し、検査の『同意書兼申込書』を出された方を対象としています。

スクリーニングの対象疾患

- **アミノ酸代謝異常**
 - ・フェニルケトン尿症
 - ・ホモシチン尿症
 - ・メーブルシロップ尿症
 - ・シトルリン血症1型
 - ・アルギノコハク酸尿症
- **脂肪酸代謝異常**
 - ・MCAD欠損症
 - ・VLCAD欠損症
 - ・TFP/LCHAD欠損症
 - ・CPT1欠損症
- **有機酸代謝異常**
 - ・メチルマロン酸血症
 - ・プロピオン酸血症
 - ・イソ吉草酸血症
 - ・メチルクロトニルグリシン尿症
 - ・ヒドロキシメチルグルタル酸血症
 - ・複合カルボキシラーゼ欠損症
 - ・グルタル酸血症1型
- **糖質代謝異常**
 - ・ガラクトース血症
- **内分泌異常**
 - ・先天性甲状腺機能低下症
 - ・先天性副腎過形成症

平成25年度

第1回 群馬県地域保健研究発表会が 開催されます

この会は、研究発表を通じて保健衛生の向上を図り、県民の健康増進に寄与するため、また、保健従事者の交流を目的として群馬県と財団が主催するものです。

関係者の方々はもちろん、広く一般の方々もご来場ください。

なお、研究発表事例の募集については、各関係機関に募集要領をお送りいたしますので、ご覧ください。

日時・場所 平成26年3月18日(火)13:00～17:00 群馬県庁 281会議室